## 【RIMS 合宿型セミナー】

		<u>-</u>					
① 代 表	所属	京都大学 大学院理学研究科	副				
	職名	i: 教授	代表				
者	氏名	i: 柴田 一成	者				
② 題	Ī 🗏	: 恒星における磁気流体現象の数理解析					
(英	文名	: Mathematical analysis of magnetohydrodynamical p	rocess	ses in stars			)
③ 実施	<b>を期間</b>	]: 2013年 9月 <b>25</b> 日~ 2013年	9月	27 日 (	3 日間	引)	
<ul><li>④参加</li></ul>	旧者数	(c) 17名 (内、外国人 2 名)					
⑤講	演数	て: 11 コマ (内、英語で行なわれたもの		11 コマ)			
⑥ 合征	言型 も	マミナーの概要 (開催目的、成果など):					
流太黒想観議て共ス体陽点定測論い同を現フ(さののるに明	象レ磁れ両結グよら、ア東て方果ルるか	法者らの研究グループにより発表された太陽型恒星にお特に恒星内部のダイナモ機構に関して大きな問題を提起の 100~ 1000 倍もの磁気エネルギーが突発的に解放され管)が太陽と同じような質量と回転速度を持った恒星で活らず、新たな理論の構築が必要とされる。本研究集会の分野から研究者を招き、最新の研究成果の発表と、今、恒星表面の磁束の移流拡散数値モデルと恒星観測との一プと捻れた磁束管の浮上による太陽黒点形成の磁気流、大局的流れの影響を受けるような巨大磁束管の浮上のにすることが当面の優先課題として上がり、現在ワーク始している。	しる形で後比体研で の の の の の の の の の の の の の の の の の の の	スでれること気がいること気があること気を明光のでは、下光のでは、大変には、大変には、大変には、大変には、大変には、大変には、大変には、大変に	フレアとうだい という という という にん い の 既 存 心 で の で の で の で の で の で ら に の で ら に の に の に の に の に の に の に の に の に の に	は知巨恒数議流行と大星理論れてが大量理論れてで大いでは、	ている最大級のフレアを表表している最大となっている。 アナーを大きなででは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、
	7	講究録を □ 発行する ☑ 発行しない		F	н		æ
研		※発行する場合: 原稿完成予定時期 平成		年	月 ———	日日	·····································
究	8	講究録以外の方法で報告集を発行する場合: タイトル: 出版社: 出版予定	· 陆· 甜	・巫哉	年	月	日頃
成	9	専門誌等による場合:	<u> </u>		<del></del>		<u> </u>
果		主要な論文リスト (掲載予定、プレプリントを含む 「恒星内の捻れ磁束管のダイナミクスに関する研究」及 Astrophysical Journal 等の専門誌へ発表するべく準備	び「竹	亘星表面の	磁束の輸	送」に関	する論文を The
の							
公							
表							
方							
法							

```
Mathematical analysis of maghydrodynamical processes in stars
September 25-27, 2013 at Kansai Seminar House
Program:
Sep 25th
PM (Chair: Isobe)
13:30 Shibata: Introduction of workshop + superflare on solar type stars
      discussion
15:30 Break
16:00 Brun: Can current dynamo model produce super flares?
      discussion
18:00 Dinner (served in Kansai seminar house)
19:00 Free discussion (short talks/comments)
Sep 26th
AM (Chair: Shibata)
9:30 Isik: Strage and transport of magnetic flux
      discussion
11:00 Yokoi: Magnetohydrodynamic subgrid-scale modeling solar dynamo
11:30 Shibayama: Long Term Monitor of Superflare Stars with Kepler
12:00 Lunch (served in Kansai seminar house)
PM (Chair: Brun)
13:00 Hotta: Multi-scale convection in the spherical shell
 discussion
15:00 Break
15:30 Takehiro Differential rotation and angular momentum transport caused
by thermal convection in rotating spherical shells
      discussion
16:30 Sasaki: Weak-field dynamo emerging in a rotating spherical shell with
stress-free top and no-slip bottom boundaries
17:00 Masada: Oscillatory Q2 Dynamo Mode in Turbulent Stratified Convection
17:30 Discussion
```

19:00 Dinner (go out to some restaurant outside)

Free discussion in the evening

Sep 27th

AM (Chair:Hillier)

9:30 Cheung: Emerging flux

discussion

11:00 Takasao: On the formation of flare-active sunspots.

discussion

12:00 Lunch (served in Kansai seminar house)

27th PM

13:00 Discussion on future collaboration (Chair: Isobe)

## List of participants

Brun, Allan Sacha (RIMS, Kyoto Univ. / CEA Saclay)

Cheung, Mark (LMSAL)

Hillier, Andrew (Kwasan and Hida obs., Kyoto Univ.)

Hotta, Hideaki (Univ. Tokyo)

Isik, Emre (Istanbul Kultur Univ.)

Isobe, Hiroaki (C-PIER, Kyoto Univ.)

Masada, Yohei (Kobe Univ.)

Sasaki, Youhei (Dept. Math, Kyoto Univ.)

Shibata, Kazunari (Kwasan and Hida obs., Kyoto Univ.)

Shibayama, Takuya (Dept. Astron., Kyoto Univ.)

Suda, Takenori (Dept. Astron., Kyoto Univ.)

Takahashi, Takuya (Dept. Astron., Kyoto Univ.)

Takasao, Shinsuke (Kwasan and Hida obs., Kyoto Univ.)

Takehiro, Shin-ichi (RIMS, Kyoto Univ.)

Tamazawa, Harufumi (Kwasan and Hida obs., Kyoto Univ.)

Yamada, Michio (RIMS, Kyoto Univ.)

Yokoi, Nobumitsu (Univ. Tokyo)

Yokoyama, Takaaki (Univ. Tokyo)